

DOWAS NEWS

2007

Vol10 No.2



ホームページ編集委員会からの報告

新刊本の紹介

海洋深層水利用学会 2007 年度定期総会報告

海洋深層水利用学会 2007 年度第 1 回理事会報告



海洋深層水利用学会

ニュースレター

ホームページ編集委員会からの報告

大久保 澄（ホームページ編集委員会幹事）

当学会のホームページ（Web サイト）も 2004 年 3 月末の開設から 3 年が経過しました。会員をはじめ、多くの方々の協力により、各ページづくりを進め、昨年度の英文ページの開設（開設日：2007 年 4 月付）により、当初の目標としていた構成内容をほぼ整えることができました。

そこで、今回は、この場をお借りし、当学会ホームページの現在の整備状況等を改めてご紹介します。

1. ホームページの整備状況 内容構成

昨年度は、どなたでもアクセス可能な日本語による【一般ページ】、および、会員のみアクセス可能な【会員専用ホームページ】（日本語のみ）に加え、英文ページを新たに開設しました。また、【一般ページ・日本語版】には、会員が推薦する海洋深層水関連の書籍を紹介するページ、ニュースレターの内容（目次）を会員以外の方にも知っていただくための

ニュースレターのページを、新たに開設しました。

各ページにおいて、当学会の活動の他、海洋深層水関連の情報（全国取水分水施設の紹介、用語解説等）の提供を行っています。その内容は、学会からの案内・報告や会員他から提供された情報をもとに、随時更新しています。

団体会員紹介やリンクのページについては、継続募集中ですので、未掲載の団体会員は是非ご検討ください。また、英文ページでは、現在、学会概要や入会案内等を掲載しており、今後は論文誌のタイトルの追加等を行っていく予定です。

現在の学会ホームページの全体構成・概要は次頁の一覧表の通りです。詳しくは、下記 URL にアクセスし、各ページをご覧ください。

海洋深層水利用学会ホームページ URL
<http://www.jadowa.org>



海洋深層水利用学会ホームページ 概要 (2007年8月現在)

主な Contents	各ページ概要
【一般ページ】…*1 どなたでも閲覧可能なサイトです.	
◇学会について	学会の概要, 活動内容の紹介, 研究発表会開催案内等.
◇海洋深層水について	海洋深層水の概要, 関連用語の解説.
◇取水分水施設	全国の取水分水施設を紹介.
◇論文誌	発行済みの論文タイトル, 投稿規程を掲載.
◇ニュースレター	非会員向けにニュースレターの内容 (最新3号分の目次) を紹介.
◇団体会員紹介…☆掲載団体会員募集中	団体会員の海洋深層水に対する取り組み等を紹介.
◇書籍紹介…☆紹介書籍募集中	会員が推薦する海洋深層水関連の書籍の紹介.
◇リンク…☆リンク希望会員募集中	団体会員の公式ホームページへのリンク集.
【会員専用ホームページ】…*2 会員のみ閲覧可能な専用サイトです.	
◇お知らせ	定期総会, 理事会報告等の会員へのお知らせ. 履歴も掲載.
◇ニュースレター	発行済みのニュースレターをPDF ファイルで掲載.
◇メールニュース	会員向けメールニュースの配信履歴を掲載.
◇登録変更	会員登録内容の変更手続き.
【一般ページ・英文版】…*3 どなたでも閲覧可能な英文のサイトです.	
◇About the DOWAS ◇Membership ◇Newsletter ◇Journals ◇Contact us	日本語サイトの一部を抜粋して掲載.

2. 会員に向けた主な情報発信について

現在ホームページを通じて, 会員に向けてご提供している主な内容は, 以下の通りです.

1) 各会の案内・報告, お知らせ

定期総会, 理事会, 研究発表会 (全国大会) の開催案内や開催報告を, ホームページに掲載しています. また, 会員は, 【会員専用ホームページ】内にて, さらに詳しい定期総会・理事会の開催報告詳細を閲覧できます.

2) ニュースレターの発行

会員に発行している「ニュースレター (海洋深層水利用学会ニュース DOWAS NEWS)」は, 昨年度より, 【会員専用ホームページ】内で閲覧する形式でご提供しています.

「海洋深層水利用研究会ニュース JADOWA NEWS」として発行したバックナンバーも含め, 全てのニュースレターがご覧いただけます.

3) メールニュースの配信

本年度より, メールニュースの配信を開始しました. 会員のメールアドレス宛*に随時メールニュースを配信し, ホームページの更新情報や, 学会事務局および各委員会からのお知らせ等をご案内しています.

メールアドレスを未登録の方は, 是非この機会に homepage@jadowa.org まで, 会員名 (団体会員の場合は団体名および担当者名) と配信希望先のメールアドレスをお知らせください.

※〈所属機関〉〈自宅〉両方のメールアドレスを登録している個人会員には, 「総会案内等送付先および連絡先」として選択されているアドレス宛に配信しています. 配信先を変更あるいは別途指定したい方は, homepage@jadowa.org までご連絡ください.

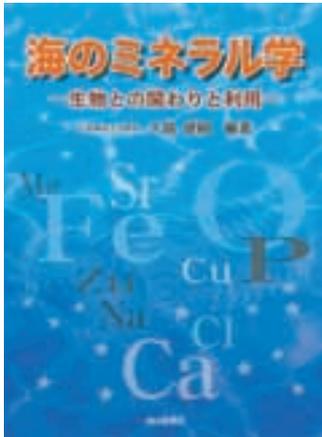
会員への情報提供, およびコミュニケーションの手段でもあるホームページは, サイト上でのニュースレターの配信開始により, 担う役割がますます重要になってきました. ホームページに関するご意見, 要望等がありましたら, ホームページ編集委員会までご連絡ください. 今後の当学会発展のためにも, 会員の皆様の声を伺いながら, より利用しやすいサイトづくりを目指したいと考えております. 今後とも, ご協力のほどよろしく申し上げます.

ホームページ編集委員会

E-mail homepage@jadowa.org

新刊本紹介

大塚耕司（大阪府立大学大学院工学研究科）



「海のミネラル学—生物との関わりと利用—」

大越健嗣編著，成山堂書店，平成 19 年 4 月 8 日発行，A5 版，
188 頁，定価 2,600 円

目次および執筆者

- | | |
|-------|----------------------------|
| 第 1 章 | 海水と海洋深層水（谷口道子） |
| 第 2 章 | タラソセラピー（海洋療法）（野村正） |
| 第 3 章 | 魚とミネラル（佐藤秀一） |
| 第 4 章 | 貝と貝殻のミネラル（大越健嗣） |
| 第 5 章 | 海藻中のミネラル（石井紀明） |
| 第 6 章 | 水産食品とミネラル（後藤知子） |
| 第 7 章 | ミネラルを高濃度に蓄積する海洋生物（石井紀明） |
| 第 8 章 | ミネラル組織から見た水産物の産地判別（大越健嗣） |
| 第 9 章 | 耳石のミネラルでアユやウナギの回遊を探る（大竹二雄） |

本書は、「海のミネラル」というキーワードを緩やかにくりとし、多岐、多分野にわたる執筆陣の共著で構成されている。各章が独立して完結した内容となっていて、どの章からでも読み進めることができる。第 3 章から第 6 章は、魚、貝、海藻など海生生物、ならびに水産食品に含まれるミネラルに関する内容で、「水産物とミネラル」としてまとめられており、食の安全、安心、食と健康といった現在注目されている話題にからめた記述が随所に盛り込まれている。また第 7 章から第 9 章は、「海のミネラル研究最前線」としてまとめられ、特に当該研究分野で注目されている、ミネラルを高濃度に蓄積する海洋生物、ミネラル組織から見た水産物の産地判別、耳石のミネラルでアユやウナギの回遊を探る、という 3 つの最新研究の概要が述べられている。

本学会に最も関連のある部分は、第 1 章と第 2 章で、「海水のミネラルとその利用」としてまとめられている。特に第 1 章は、筆者が元高知県海洋深層水研究所長の谷口道子氏で、海洋深層水を取水している各地の水塊構造や水質について詳しく述べられている。水塊構造については、室戸、富山、静岡、羅臼、久米島が例に挙げられ、水温、塩分のデータを含む立体水塊構造が図解されている。また水質については、本書のタイトルとなっているミネラル成分に関して詳細なデータが掲載されている。このほか、室戸海洋深層水に関しては、脱塩水や市販のミネラル調整水についても詳しい成分データが紹介されている。これだけのデータがコンパクトにまとめられたものはこれまでになく、データブックとしても有用な本であるといえよう。

とはいえ、重厚な内容だけではなく、編者が世界を旅して見聞きした面白いネタを、コラム「ミネラルの旅」として所々に囲み記事で紹介されており、ちょっとしたトリビア本ともなっている。海洋深層水とはどのような海水かを知りたい人、水や食品の安全、安心、健康に興味を持っている人、海のミネラルの雑学を身につけたい人、などにお勧めの一冊である。

海洋深層水利用学会 2007 年度定期総会 報告

【総会概要】

日時：2007 年 5 月 25 日(金) 13:55~14:25

場所：日本財団 2 階 大会議室 (港区赤坂 1-2-2)

参加者数：87 名 (委任状 54 通を含む)

* 2007 年度 5 月 25 日現在における個人会員：214 名，団体会員 72 団体の合計に基づいて成立

資料：資料 1-1 2006 年度事業報告

資料 1-2 2006 年度収支報告

資料 1-3 2006 年度会計監査報告書

資料 2-1 2007 年度事業計画 (案)

資料 2-2 2007 年度事業予算 (案)

資料 3 人事異動に伴う理事交替の承認について

主な報告・審議事項：

1. 2006 年度事業ならびに収支報告 (案)，およびその監査報告が承認された。
2. 2007 年度事業計画ならびに予算 (案) が審議の結果承認された。
3. 人事異動に伴う理事交替についての説明があり，高松賢二郎理事が富山県水産試験場長の中島員洋氏に交代することが承認された。
4. 2007 年 10 月 4 日から 5 日にかけて北海道羅臼町で開催される第 11 回全国大会の詳細が報告された。

【配布資料】

資料 1-1 (2006 年度事業報告)

1. ニュースレターについて

論文誌第 7 巻 (2 号) にニュースレター (能登深層水紹介，および新刊本紹介) を掲載 (予定)。

2. 研究発表会について

開催日：2006 年 11 月 16 日(木)~17 日(金)

開催場所：三重県尾鷲市 (尾鷲市民文化会館)

研究発表内容：一般講演 34 題，参加者 162 名

展示内容：地元企業の協力を得て，地場製品による先進的な内容の展示となった。

見学会：尾鷲市アクアステーション，三重県尾鷲栽培漁業センター，尾鷲名水(株)，三重県立熊野古道センターを見学した。

3. 論文誌について

「海洋深層水研究 第 7 巻，第 1 号，2006 年」の発行

発行日：2006 年 10 月 25 日

体裁：A4 版，28 ページ

(英文部分 (要旨，表題，図表説明) の外国人校閲を導入)

掲載論文数：3 編+講演録 1 編

印刷部数：600 部

「海洋深層水研究 第 7 巻，第 2 号，2006 年」は作成中 (論文 5 編+ニュースレター)

4. ホームページについて

- 1) 既存ページの更新 (変更・追加)

①開催案内・報告 (総会，研究発表会，10 周年記念事業)，活動報告

②発行物の掲載・案内：ニュースレター第 9 巻第 2 号および第 10 巻第 1 号を掲載

③学会移行に伴うホームページの変更 (マーク・名称等)

④団体会員紹介ページの更新：3 件

⑤取水分水施設ページの更新 (新規項目追加)：1 件 アクアステーション・三重県尾鷲市

2) 全国大会申込み受付システムの整備：FAX，郵送，E-mail による申込方法と併用して実施

3) 英文ページ：開設

4) ニュースレターコーナー：一般ページ内に新規開設 (最新版から 3 号分の目次を公開)

5) 書籍紹介ページ：開設済 (2007/5/25 現在の紹介書籍数：2 冊)

資料1-2 (2006年度収支報告)

2006年度収支報告 (3/31現在)

(単位:円)

1. 収入の部

勘定科目	予算額	決算額	差異	備考
会費収入	5,429,000	3,919,000	△ 1,510,000	
個人会員会費	1,080,000	630,000	△ 450,000	216名→126名(未納90名)
団体会員会費	4,100,000	3,150,000	△ 950,000	82団体→63団体(未納19団体)
賛助会員会費			0	
未収入会費(回収分)	249,000	139,000	△ 110,000	46件
事業収入	140,000	100,278	△ 39,722	
総会懇親会参加費	140,000	84,000	△ 56,000	
論文誌販売費		14,820	14,820	
利息・雑収入	20	1,458	1,438	
当期収入合計(A)	5,569,020	4,019,278	△ 1,549,742	
前年度繰越金	3,685,952	3,685,952	0	
収入合計(B)	9,254,972	7,705,230	△ 1,549,742	

2. 支出の部

勘定科目	予算額	決算額	差異	備考
事業費	3,500,000	2,386,109	1,113,891	
総会費	400,000	199,780	200,220	
ニュースレター発行費	300,000	535,872	△ 235,872	
研究発表会開催費(全国大会)	900,000	625,937	274,063	
論文誌発行費	1,100,000	363,650	736,350	
ホームページ管理費	800,000	660,870	139,130	
事務費	1,725,000	1,293,112	431,888	
会議費	25,000	0	25,000	
事務局委託費	1,080,000	1,080,000	0	
通信運搬費	300,000	146,295	153,705	
諸印刷費	200,000	3,000	197,000	
消耗品費	100,000	51,617	48,383	
雑費(手数料等)	20,000	5,600	14,400	
事務局旅費		6,600	△ 6,600	
予備費(10周年記念事業積み立て金)	4,000,000	4,000,000	0	
当期支出合計(C)	9,225,000	7,679,221	1,545,779	
当期収支差額(A)-(C)	△ 3,655,980	△ 3,659,943	3,963	
次年度繰越金(B)-(C)	29,972	26,009		

資料1-3 (監査報告書): 問題なしと報告された(資料の写しは省略)

資料 2-1 (2007 年度事業計画 (案))

1. ニュースレターについて
 - 1) 論文誌 8 巻 1, 2 号にニュースレターを掲載
 - 2) ホームページに 4 回程度ニュースレター (情報コーナー・トピックス) を掲載
 - 3) 回顧録や会員の声の検討
2. 研究発表会について
 - 1) 第 11 回 海洋深層水利用学会全国大会を開催予定
 - 2) 開催場所は北海道羅臼町, 開催日は 10 月 4, 5 日
3. 論文誌について
 - 1) 「海洋深層水研究 第 8 巻 第 1 号, 第 2 号 2007 年」の発行
 - 2) 英文部分 (要旨, 表題, 図表説明, 英文論文は本文も) の外国人校閲を導入
 - 3) 10 周年記念事業の増刊号, 号内特集の検討
 - 4) 短報の投稿規定の整備
4. ホームページについて
 - 1) 情報発信
 - ① ニュースレターの掲載: ニュースレター編集委員会提供の原稿アップ
 - ② 発行物の掲載・案内 (論文誌)
 - ③ 各会案内・報告 (総会, 理事会, 10 周年記念事業, 研究発表会): 事務局・各委員会提供の原稿アップ
 - ④ メールニュースの会員への配信: 各会案内, ホームページ更新情報等を随時配信 (登録アドレス宛)
 - 2) 研究発表会 (全国大会) のホームページからの申し込み: 前年度に引き続き, 研究発表企画委員会と連携をとり, ホームページ上で参加申込を受付
 - 3) 既存ページの更新・追加他: 書籍紹介・団体会員紹介の追加継続募集, その他 (英文ページ, 研究会活動報告等)

資料 2-2 (2007 予算案)

2007 年度海洋深層水利用学会予算案

収入の分	¥9,800,009
会費収入	5,774,000
個人会員会費 (¥5,000 * 214)	1,070,000
団体会員会費 (¥50,000 * 72)	3,600,000
未収入会費 (団体 ¥500,000・個人 ¥604,000)	1,104,000
記念事業積立金	4,000,000
繰越金	26,009

支出の分	¥9,800,009
事業費	5,850,000
ニュースレター編集委員会	300,000
研究発表企画委員会	1,100,000
ホームページ編集委員会	700,000
論文誌編集委員会	2,000,000
創立 10 周年記念事業費	1,750,000
事務局経費	1,465,000
事務局委託費	1,080,000
その他 事務経費	385,000
予備費	2,485,009

資料 3 (人事異動に伴う理事交替 (案))

高松賢二郎氏が人事異動により役職を離れ, その任務を遂行することが困難となったため, 理事会として下記により新理事に中島員洋氏を推薦する。

記

1. 交替が必要となった理事

富山県水産試験場を代表として, 2006 年 4 月より理事を務めている高松賢二郎氏。
2. 理事の任務を遂行できなくなった理由

人事異動により, 富山県水産試験場の場長が 2007 年 4 月 1 日に高松賢二郎氏から中島員洋氏に交替したため。
3. 新理事の推薦

高松賢二郎氏から, 理事を, 富山県水産試験場の新場長に就任した中島員洋氏と交代したいとの申し入れがあった。理事会で検討した結果, 理事会として中島員洋氏を新理事に推薦することになった。

海洋深層水利用学会 2007 年度第 1 回理事会報告（事務局）

2007 年度定期総会に先立ち、2007 年 5 月 25 日（金）の 13:00~13:50 に、東京日本財団ビル 2 階第 8 会議室において、2007 年度第 1 回理事会が開催された。出席理事は、酒匂会長・松里副会長をはじめとした 11 名。主な議事は以下のとおりである。

（総会資料についての審議）

1. 2006 年度事業ならびに収支報告（案）、およびその監査報告が承認された。
2. 2007 年度事業計画ならびに予算（案）が審議の結果承認された。
3. 人事異動に伴う理事交替についての説明があり、高松賢二郎理事が富山県水産試験場長の中島員洋氏に交代することが承認された。
4. 2007 年 10 月 4 日から 5 日にかけて北海道羅臼町で開催される第 11 回全国大会の詳細が報告された。
5. 事務局から、会費の未収入累積が大きいので、なんとか解消していきたい、そのために今年度は早めに会費請求を行いたい旨の説明があった。
6. 全国大会で論文誌の投稿を直接呼びかけたい、また要旨集にも論文投稿に関する呼びかけを追加することが提案され、異議なく承認された。
7. 論文誌の第 7 巻第 2 号（2006）は 6 月中に印刷予定。
8. ホームページ編集委員会より、メールニュースの発信を行った、今後とも拡充等していきたい旨の説明があった。
9. 入退会者が承認され、2007 年 5 月 1 日現在の会員数は、個人会員 214 名、団体会員 72 団体であることが報告された。

（その他の審議事項）

10. 今後考えられる学会賞・論文賞や感謝状等について、内容や業績の評価を行う委員会の設置や受賞候補者の選定方法等についての規則が必要になってくることが共通認識された。
11. 講演者への謝金や旅費規程についても、今後は規則をつくって制度化していく必要があることが認識された。

■ニュースレター編集委員名簿

委員長	大塚 耕 司	大阪府立大学大学院
委員	池上 康 之	佐賀大学
同上	大貫 麻 子	(株)海洋産業研究会
同上	岡本 一 利	静岡県水産技術研究所
同上	川北 浩 久	高知県海洋深層水研究所
同上	進 藤 秀	株式会社キタック
同上	長谷部 雅 伸	清水建設株式会社
同上	深見 公 雄	高知大学大学院
同上	藤田 大 介	東京海洋大学
同上	松村 航	富山県水産試験場
同上	安川 岳 志	赤穂化成株式会社